

「子育て支援の取組」や「団地の利活用」に関する他都市事例

1. 子育てにやさしいまちづくり ～送迎保育ステーション事業～（千葉県流山市）

<概要>

- ・流山市は、平成 17 年につくばエクスプレスが開業し、都心とのアクセス性が高い緑豊かなベッドタウン
- ・住民誘致のメインターゲットを子育て世代と定め、子育て関連の施策に力をいれている。
- ・「第 2 期子どもをみんなで育む計画」における重点事業の一つとして、「送迎保育ステーション」(*)を実施。
※つくばエクスプレスの駅近隣に設けられた送迎ステーションから、預けた子どもを流山市内の保育所(園)間で送迎するサービス(図 1)



図1 送迎保育ステーションの概要イメージ
(出典：たかさごスクールセントラルホームページ)

2. 民間企業との連携による団地活再生、これまでの風景と新しい建物が共存した持続可能なコミュニティの形成 ～日の里団地再生プロジェクト～（福岡県宗像市）

<日の里団地の概要>

- ・日の里団地が立地する宗像市は、福岡市と北九州市の間に位置する両市のベッドタウン
- ・日の里団地は九州最大規模の団地であり、建設から約 50 年が経過し、建物の老朽化や入居者の高齢化が課題の一つ

<団地再生プロジェクトの概要>

- ・公募で決定した共同企業体（住友林業等民間企業 11 社）に 10 棟のうち 6 棟を譲渡し、当該事業者と宗像市、UR 都市機構で連携協定を締結
⇒建物活用やイベント支援など民間ノウハウを活用した団地再生事業を実施
- ・譲渡した住棟 1 棟を生活便利施設「ひのさと 48」(図 2) にリニューアルし、その他の住棟は解体して戸建てに分譲。既存の団地住棟とひのさと 48 の間に戸建てが立地
- ・日の里団地のこれまでの風景を残しつつ、新しい建物が共存したサステナブルなコミュニティをテーマとして設定
- ・建物の一室を利用して、ビールの醸造や、DIY 工房、コミュニティカフェ、キッチンスペース、幼稚園、発達支援センターなどの取組を実施。団地や周辺地域の人々の交流拠点として機能



図2 生活便利施設「ひのさと 48」
(出典：さとづくり 48 HP)